



さらっと いざいさ あったかい
高知家の教育

令和に求められる資質・能力を育成する授業づくりへの羅針盤 ～授業で力をつける～



発行
R7年1月
西部教育事務所



西部管内の
講座HP

令和の授業づくり講座（社会科） 宿毛市立宿毛中学校

教材研究会 令和6年10月4日（金）

【单元名】 地理的分野 日本の諸地域『近畿地方』
※「**歴史的背景**」を中核とした考察の仕方
【单元を貫く問い】
（案）『**歴史を生かした近畿地方の地域づくりの工夫とは**』

〈单元構想の主張と悩み〉
○三都市の歴史と関連付けた特色と課題を扱うのは広すぎか？
○歴史と関連付け易く、人々の生活の工夫が見られる京都に絞るのが良いか？
○生徒から出た、東京大都市圏と京阪神大都市圏の言い方の違いや、都市間の結び付きを大切にしたい！
→ 協議①②へ

田村教科主任



〈研究主題〉

豊かな学力を身につけ、主体的に学び続ける生徒を育てるための指導法と体系づくり



教材研究会

視点
（協議①）单元ゴールについて
（協議②）生徒が自分ごととして捉え、主体的に取り組める单元を貫く課題について

生徒の「？」を引き出す課題とは？

【協議②より】

- このままでも良いのではない。学習過程を大切に自分ごととして追究させ、歴史を生かしたまちづくりを宿毛市で提案できるようにしたい。
- 歴史的な文化財が多く観光業も盛んな部分に着目させ、そこから自分たちの住む持続可能な宿毛市に向けて考えさせたい。

（案）・「歴史を使って宿毛市を持続可能にするには～近畿地方から学べ～」
・「観光地として成功した秘訣とは？」等

Point

1

「課題把握」、「課題追究」、「課題解決」の学習過程に沿って、歴史的背景と関連付けて近畿地方の地域的特色や、そこで生じる課題を捉える。

2

地理的な見方・考え方を働かせ多面的・多角的に社会的現象を考察し、地域に住む人々の営みに着目する。

3

学んだ事を基に、課題解決への取組や自分たちが住むまちの地域づくりに生かせることを考え**選択・判断**し、自分の考えを表現する。

主体的な学びにつなげる单元構想案

目標の姿との整合性

目指す单元ゴールは明確か？

【協議①より】

- 京都は子どもにとってもつきやすそうであるが、ゴールを考えると大阪、神戸も扱う必要がある。
- 京都のみになると、多面的な考察を狭めてしまう。
- 見方を示さないでゴールが広がりすぎる。焦点化が必要ではないか。
- 生徒の興味・関心から、京都が観光地として成功した理由を考え、歴史を生かして未来へつなぐ構想。
- 歴史的背景を中核とする考察の仕方だけではなく、別の視点もあるため、深まる单元ゴールを考えることが難しい。

【講師】
愛媛大学教育学部
井上 昌善 先生



〈授業づくりの助言・講話より〉

- 内容の構造化と焦点化が必要である。
- 单元終了後には近畿地方の地域的特色、課題が説明できるようにする。
- ①具体的な事例を取扱う
- ②事例を追究することで地域的特色の理解（具体→抽象へ）
- ③習得した知識を活用する場面の設定（知識の転移）

- 現在求められているのは、「なぜ」、「どうすれば」を説明、表現する力を身に付けることである。
- ①「**変化に対応する力**」：社会の変化について多面的・多角的な**考察**を重視
- ②「**変化を起こす力**」：社会の改善、変革を目指した**構想・提案**を重視
- ※事実認識の上に価値認識を得ること社会認識へ（**公民としての知識**）

いかにこの場面をつくるか！

□ 生徒が学びたいと思う時とは！？

- ☆ 自己の知的成長を実感できた時ではないか。
- 他者との関わりが前提になる。
- 「**他者との関わり**」に意味を見出す指導の充実
- ※ どのような「他者」と、どのような学び（出会い）の場をデザインするかが重要

□ 深い学びにいたっている子どもの姿とは！？

- ※ 子どもはどこで孤独を感じるのか？
- **どこで協働的な活動を仕組むか**

↓
主体的・対話的で深い学びの実現へ

問い

仮説

検証

探究のプロセス

授業研究会 令和6年11月7日（木）

【授業者】 水谷 耕太郎 教諭
【单元名】 地理的分野 日本の諸地域『近畿地方』
【单元を貫く問い】
『**観光客と共に歩む近畿地方の魅力を高める秘訣とは？**』

日本の諸地域の学習を通して、自分の住む地域の持続可能なまちづくりにつなげることができるように、生徒の考えを引き出したい。

水谷 教諭



〈本時の目標〉近畿地方の課題に着目し、他地域と比較して地理的特徴を活かした課題解決の糸口を考え、表現する。
【思考力、判断力、表現力】

視点
（協議）「比較する視点」に基づいて、根拠を示し、生徒がより良い解決の方向性を見出そうとしているか

〈本時のめあて〉 「他地域との比較から近畿地方（京阪神大都市圏）の課題解決の糸口を探ろう」

Point 1

毎時間『单元を貫く問い』を掲示
单元ゴールを常に生徒に意識させるとともに、考える方向性がブレないようにします。

本時までの学習で生徒が気付いた課題や疑問を提示
→ キーワード（着目させる視点）

Point 2

効果的な他者との関わり方の追究（個別→協働→個人）
課題解決に向けて個人で追究している問いへの情報や意見を、クラウド上や、グループ、ペア活動で共有します。友達の課題に対する多様な意見や視点を共有し、疑問や悩みも出し合うことで、自身の考えを再確認したり固執した考えから脱却したり、より実現可能となる深い考えへの思考・判断につなげます。

近畿地方の学習のなかで生徒が気付いた地域の課題

地域の事象の考察から

京都・大阪・神戸に共通して見られる**オーバーツーリズム**

着目・焦点化

京阪神のつながりから
オーバーツーリズムの課題解決に迫りたい！

学んだこと、根拠を基に
選択・判断

構想へ

学びの過程が分かる板書の工夫

Point 3

効果的なタブレット端末の活用

ロイロノートを使って全体の意見共有や、課題追究の途中参照・他者参照、振り返りの提出を行います。本時では生徒が社会的な見方・考え方を働かせて記述した振り返りを即時に教師が評価し、全体共有へとつなげることで、生徒が学び方や異なる視点に気付いたり、考えの再思考・深化につなげたりする姿が見られました。

参加者の声

- 子どもたちが個別最適な学び・協働的な学びを通して主体的に思考していくための手立てを参考にすることができた。答えのない課題に対して、批判的思考を用いながらよりよい最善策をみんなで考えて行く力を付けるような授業を考えていきたい。
- 既習事項の蓄積を活かして思考できていた。根拠として、既習の資料等も提示しながら説明することができれば更に思考が深まると感じた。
- クラウドを効果的に活用し、生徒の感覚的発言を情報収集・共有・対話・整理分析の流れを汲んで展開し、理解や思考を深めることにつなげていくことが大切である。

授業研究会

